

WEEKLY SIGNAL

平成30年8月3日(金) 1435号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	8/6(月)	8/7(火)	8/8(水)	8/9(木)	8/10(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 900	トシ	トシ	トシ	△1,000
財政他	+ 100	+ 2,000	△4,000	△2,000	△12,000
資金需給	+ 1,000	+ 2,000	△4,000	△2,000	△13,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	交付税特会借入・償還	10年物価連動国債発行		国庫短期証券発行・償還(6M) 国債発行(30年)
オペ期日	共通担保(全店) △1,300 CP等買入 △200 国債補充供給 + 2,500				
オペスタート	国債買入 + 6,400 共通担保(全店) + 1,300				
(日本)		家計調査(6月) 毎月勤労統計(6月) 景気動向調査(6月)	日銀決定会合の主な意見 (7/30・31分) 国際収支(6月) 貸出動向 銀行統計(前年比)(7月) 景気ウォッチャー調査(7月)	対内対外証券投資(7/29-8/4) マネーストック(7月) 機械受注(6月)	国内総生産(4-6月速報) 企業物価指数(7月) 第3次産業活動指数(6月)
(海外)		米 求人件数(6月) 米 消費者信用残高(6月) 中 外貨準備高(7月)	米 リッチモンド連銀総裁、講演 中 貿易収支(7月)	米 新規失業保険申請件数 (8/4終了週) 米 PPI(7月) 米 卸売在庫(6月) 欧 ユーロ圏ECB月報	米 CPI(7月) 米 財政収支(7月) 英 GDP(4-6月速報) 英 鉱工業生産(6月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、391兆1,500億円から始まった。その後は1日の2年物国債発行、2日の税揚げ等を主因に減少し、384兆7,200億円で越過となった。
無担保コールON物金利は、先週に引続き調達ニーズが薄く△0.08%台の出合も多く見られる軟調な展開が続いた。月末初物となる31日は、一部ビットサイドが調達を見送った影響で△0.08%台の出合が減少した結果、集計上の技術的要因から加重平均金利は△0.065%に上昇した。
2日の税揚げ後、週末となる3日は調達意欲がやや戻ったことで一部に積極的な調達がみられたものの出合のレンジが変化するまでには至らず、加重平均金利は0.071%で越過した。
ターム物は一部参加者の積極的な放出ニーズが見られたことで、1~2W物では△0.05%台~△0.06%台の出合も散見された。
7月31日に結果が発表された日銀決定会合では、「強力な金融緩和継続のための枠組み強化」を決定した。長期金利の変動をある程度認め、緩和の副作用に配慮する一方で、当分の間、低金利を維持することを想定する「フォワードガイダンス」を導入した。また実務的な対応として、政策金利残高を現在の水準から減少させるほか、TEFの銘柄別の買入れ額を見直し、TOPIXに連動するETF買入れ額を拡大した。
来週は、国内では、日銀決定会合の主な意見(8日)、国内総生産(4-6月速報)(10日)、海外では、米リッチモンド連銀総裁講演(8日)、米CPI(10日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

< C P >

今週の入れ発行総額は約8,000億円で、週間償還総額の約1兆2,400億円から減少した。発行市場は、月末の大量償還があったものの、月明けスタートからその他金融や電気機器業態等の大型案件が相次ぎ活況となった。7月末の発行市場残高は19兆3,207億円と、平成21年2月末(20兆4,465億円)以来の高水準であった。週末の市場残高も19兆4,000億円弱と高水準を維持している。発行レートは、市場残高の増加に伴い、やや目線が引き上げられる動きとなっており、全般的に上昇地合い。
来週の償還総額は、8,000億円程度となっている。夏季休暇前の前倒し発行等により、横這いから発行超を予想する。発行レートは、ディーラーの目

< TDB >

3日に行われた3M774回債は、最高落札レート△0.1423%(前回債△0.1523%)、平均落札レート△0.1587%(同△0.1579%)と前回債から概ね水準は変わらず。入れ後、セカンダリー市場では同3Mは△0.172%まで買い進まれ、入れ水準を大きく下回る堅調な展開となった。
来週は9日に6M、10日に3Mの入れが予定されている。

< レポ >

月末受渡しとなる週初の銘柄先決めGCは、△0.20%台半ばから出合いが付き始め、△0.17%~△0.18%まで上昇。1日受渡し物も、△0.10%台後半からスタートしたがレートは上昇基調となり、△0.11%近辺の出合いも見られた。以降週末にかけては概ね△0.11%~△0.10%のレンジで取引された。
SC取引では10年債カレント近辺銘柄のbidが多く、349回債・350回債は週を通して概ね△0.50%台後半から△0.60%台半ばの出合い。351回債は30日の指値オペ後極端な品薄となり、入れ日前日まで△1%を超えるレートでの取引が続いた。その他2年388・389・390回債、5年134・135・136回債、10年340・341・345・346・347・348回債、20年163・164・165回債、30年58・59回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。